

2023年度 懸賞論文 (学生論文) 審査結果の報告

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会広報事業専門委員会

2023年度の学生論文は「あなたが市長なら、どのような“まちづくり”をしたいですか？」および「豊かな未来へ繋げるために、あなたはどのように土木技術を活用しますか？」の2テーマを設定し、昨年6月1日から9月30日までの4ヶ月間で募集を行いました。その結果、大学院、大学あわせて13編の応募をいただきました。それらの全ての論文を広報事業専門委員会が審査基準に基づき審査し、入賞候補論文1篇を選出した上で、倫理・表彰委員会に諮り、特別賞1編を決定いたしました。

入賞論文の概要は以下の通りです。また、入賞論文については、建設コンサルタンツ協会ホームページ内の「論文募集コーナー」の「入賞論文一覧」に掲載しています。(https://www.jcca.or.jp/achievement/article/award.html)

【特別賞】

『観光コンテンツと地域住民を繋ぐグリーンスローモビリティ』

受賞者: 齋藤 岳 (長岡技術科学大学大学院)

論文概要

新潟県妙高市における公共交通と農泊の課題に対して、低速の電動車で地域内を繋ぐグリーンスローモビリティ(※)を導入することによって解決することを提案している。

グリーンスローモビリティの移動速度や輸送量、運営経費を踏まえた狭い範囲での運行を想定し、各集落や市街地の中で集会所や道の駅等の拠点を中心に都市機能を繋ぐ路線と、集落同士や市街地へのアクセスを可能とする路線の2種類の路線運行を検討している。

また、施策による効果として、交通アクセスの改善の他、景色を楽しむための観光ツールとしての利用や地域住民と観光客の交流促進、地域コミュニティ活性化についても言及している。

※ グリーンスローモビリティ: 時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称

論文講評

低速で近距離の移動に適したグリーンスローモビリティの特性を理解し、距離が短く性格の異なる2種類の路線を組み合わせる交通ネットワークを構築するアイデアは独創的である。また、農泊可能な観光地としての特性を活かしつつ地域住民と観光客の移動を補完する提案は、有効かつ合理的である。加えて、地域の実態や調査結果に基づいた具体的な課題設定がされている点に説得力があり、これらの点を総合的に評価し、特別賞とした。

導入や運営の費用を踏まえた採算性や、運行頻度、運転手の確保など、施策の実現可能性において検討の余地があるため、これらの課題についても言及されていると、より良かった。